

令和8年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	探究活動の充実	
重点課題	探究的学習の深化と更なる進化	
現 状	本校の探究活動は、探究科学科創設以来継続している課題研究活動と、普通科1・2年生が「未来〇学」として取り組む総合的な探究活動の2種類がある。それぞれの取組において深化の方向性には若干の違いがあるものの、いずれも知識や情報を再構成し、「新たな価値」の創出へと繋げる力の育成を共通の目標としている。 その実現に向け、教室での学びを発展させた「創造性」の涵養を重視し、本校の探究的学習では、生徒の瑞々しい感性に基づく「対話」および「協働」を核とした主体的な学びが展開されるよう留意しつつ、その指導方法について不断の改善と試行錯誤を重ねている。	
達成目標	1 「対話」および「協働」的な学びによって深化する「創造性」の育成	2 探究活動に必要な「考えるための技法」の新たな手法の考察と改善
	「10の力」のうちの「対話」および「協働」の双方について、段階評価が3以上に到達する生徒の割合を、1年生では85%以上、2年生では88%以上とする。	①「考えるための技法」に関する考察および改善を目的として、校内教職員研修会を開催するとともに、「未来〇学」担当者打合せ会を定期的実施する。 ②校内研修で得られた内容や改善手法を授業において少なくとも1回以上活用するとともに、「未来〇学」担当者打合せ会については月1回以上の実施を目指す。
方 策	1 探究的な学びが自己の進路選択や社会的活動と深く関連していることを理解させるとともに、「対話」や「協働」を通じてその学びが一層深化することを実感できるよう指導する。 2 「探究基礎」「理数探究」および「未来〇学」の指導内容・指導方法について十分に研究を行い、授業担当者間および分掌間での共通理解を図りながら、緊密に連携して実施する。 3 基本的な情報機器の操作技能を習得させるとともに、情報を適切に扱うための「情報倫理」、探究活動を行う上での「研究倫理」、および生成AIの適切な利活用の在り方について理解を深めさせる。 4 指導の中に「考えるための技法」が効果的に位置付けられているかを検証するとともに、教職員研修等で得られた知見や技法の活用方法について定期的に共有する。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)